

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ)		授業コード	E002611
担当教員名	松下 乾次		科目ナンバリングコード	E31203
配当学年	3	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	特になし。			
受講心得	出席が必修です。課題(発表・レポート)をしっかりと達成してください。遅刻、居眠り等課題に集中していない場合は、出席とは見なしません。			
教科書	谷本寛治『CSR 企業と社会を考える』(NTT出版)			
参考文献及び指定図書	授業で指示します。			
関連科目	3年生ではとくに法律の関連科目をしっかりと履修してください。			

授業の目的	<p>企業・組織の社会的責任を学習します。企業、官庁その他様々な組織における不祥事が連日報道されています。食の安全、製品の欠陥、建物の欠陥、さらに行政組織では年金のいい加減な処理など。明らかな法令違反は問題外です。コンプライアンスは必須です。いまではさらに、社会貢献、社会的責任(CSR)が企業その他組織には求められています。企業は株主・顧客だけでなく、消費者、地域住民そして従業員にも気を配ることが求められます。ヒト・モノ・カネを集中して効率よく利潤を追求するだけでなく、あらたな社会の創造を企業やその他様々な組織は求められているのです。19世紀、20世紀と発展してきた産業社会は、テロ、環境破壊、そして経済金融危機という巨大なリスクに直面しています。また、グローバル化・高度情報化は、特に現代企業に新たな変革を求めています。これら、現代の社会経済の状況を踏まえ、企業そして多様な組織がどのような課題を持ち、新たに変わろうとしているかを学習していきます。</p> <p>企業の課題を、同時に地方創生と合わせて考えてもらう。</p>
授業の概要	<p>ゼミナールⅢでは、とくに現代(ポスト産業資本主義)の企業・会社のあり方、仕組み、ガバナンスについて、グローバル化の視点から(各国の会社制度の比較を通して)学習します。そして、後期には、社会的責任(CSR)について学習していきます。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<p>前期 第1週: ゼミナールⅢの課題についてのガイダンス</p> <p>履修指導、ゼミナールⅢ(通年)の課題についての説明。学習目的について、就職についての課題を確認し、各自で今年度(あるいは前期)の目標を立てる。</p> <p>第2週: ゼミナールⅡA・ⅡBの復習</p> <p>ゼミナールⅡで扱った戦後日本経済史の復習をする。</p>	<p>今一度、戦後日本経済、とくに最近の経済金融について整理する。</p>
<p>第3週: 2008年金融危機後および2014年度の時事</p> <p>2008年金融危機から2015年の現在の経済・金融の問題を見る。</p> <p>第4週: アベノミクス政策の評価。資本主義と格差の問題。</p> <p>アベノミクス政策2年の成果、日本の潜在的成長力、話題の「格差」問題を考える。</p>	<p>現在の金融・経済の問題を各自でノートに整理する。</p> <p>配付資料を熟読し、ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。</p>

<p>第5週：ポスト産業資本主義における会社のあり方</p> <p>グローバル化、インターネット社会、消費者主権など現代社会の大きな変化の中で、会社はどう機能しているか。現代の会社の変容を見ていく。地方の中小企業の可能性も見ていく。業界研究も同時に行っていく。岩井克人『会社はこれからどうなるか』等を参考。</p> <p>第6週：ポスト産業資本主義における会社のあり方 各自の意見を出し、議論し、各自ノートにその成果をまとめる。</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>
<p>第7週：ポスト産業資本主義における会社のあり方</p> <p>現代の企業、あるいは若者の雇用の問題も関連して扱う。</p> <p>第8週：コーポレートガバナンス、とくにトップマネジメントのあり方 現代の会社におけるコーポレートガバナンスを概観する。平成26年会社法改正の概要。</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>
<p>第9週：日本のコーポレートガバナンス</p> <p>日本のコーポレートガバナンスを、とくにトップマネジメントの特徴から見ていく。</p> <p>第10週：日本のコーポレートガバナンス 日本の会社の取締役会を中心にトップマネジメントの特徴を見る。トヨタ、ソニーなど。各自の意見を出し、議論し、各自ノートにその成果をまとめる。</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>
<p>第11週：アメリカのコーポレートガバナンス</p> <p>アメリカのコーポレートガバナンス、とくにトップマネジメントの特徴を見る。</p> <p>第12週：アメリカのコーポレートガバナンス アメリカの会社の取締役会を中心にトップマネジメントの特徴を見る。GMなど。</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>
<p>第13週：アメリカのコーポレートガバナンス</p> <p>各自の意見を出し、議論し、各自ノートにその成果をまとめる。</p> <p>第14週：ドイツのコーポレートガバナンス ドイツのコーポレートガバナンス、とくにトップマネジメントの特徴を見る。</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>
<p>第15週：まとめ</p> <p>コーポレートガバナンスについての課題について、意見を出し議論する。その成果をノートに整理し、提出する。 面談：各自の自己評価に基づいて個人面談。</p>	<p>夏季休暇中、ドイツ・中国のコーポレートガバナンスを学習しておく。</p>
<p>後 期 第16週：後期履修指導と面談。前期の課題の復習。</p> <p>後期の課題についてのガイダンス。</p> <p>第17週：ドイツのコーポレートガバナンス・中国のコーポレートガバナンス 夏季休暇中に学習したことについて、意見を出し議論する。その成果をノートに整理し、提出する。</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>
<p>第18週：企業の社会的責任(CSR)について</p> <p>現代の企業・会社の課題を整理する。地方産業・企業の現状、行政・NPOなどとの協働も見ていく。</p> <p>第19週：企業の社会的責任(CSR) 以下担当箇所を決めて発表会形式に。 教科書 谷本寛治『CSR』第1章 企業とは何か 1. 会社を見直す契機</p>	<p>配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。</p>

第20週：第1章 2. 日本企業とステイクホルダー 特に地方における展開を見る。		配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。
第21週：第1章 3. 90年代以降の構造変化		
第22週：第1章 3. 90年代以降の構造変化 90年代から今日の企業をめぐる環境変化を議論する。		配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。
第23週：第1章 4. 企業価値をはかる新しい「モノサシ」		
第24週：第1章 5. グローバル化と日本企業		配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。
第25週：第2章 社会の中の企業 1. 社会的に責任のある企業とは		
第26週：第2章 2. CSRの三つの次元		配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。
第27週：第2章 2. CSRの三つの次元		
第28週：第2章 3. CSRへの潮流		配付資料を熟読し、ゼミナールの終了後、ポイントをノートに整理して復習する。
第29週：第2章 4. 企業行動基準		
第30週：まとめ 1, 2章までを参考に、各自CSRについてまとめて提出する。春期休暇中は、企業の出しているCSRを各自で調べてみる。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	現代の会社が抱える課題について、将来の進路と関係させながら考えていく。
【知識・理解】	現代の会社が抱える課題について、基本的知識を学ぶ。
【技能・表現・コミュニケーション】	現代の会社が抱える課題について、主要論点について簡潔にまとめる。
【思考・判断・創造】	現代の会社が抱える課題について、独自の意見を持つようにする。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を楽しみ、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	